

櫻谷議員 おはようございます。早いもので、東北の大震災より一年が経ちました。ここで改めて被害に遭われた方々と亡くなられた方々、多くの方々に追悼の意を表したいと思えます。今日はその教訓を生かすためにも防災を中心とした一般質問をさせていただきます。まずはじめに、庁舎移転&建て替え計画を検討の時期について一般質問させていただきます。本庁舎移転計画については、過去に質問をした経緯がありますが、昨年3月11日に起こりました未曾有の災害は、日本列島どこに再び起こるかもしれない、国、県の対応が大きく変わってきている現状を踏まえ、南海、東海、東南海3連動と予測される中、東北の災害は決して対岸の火事ではありません。そこで改めて本庁舎の今後の見通しについてお伺いいたします。巨大地震の到来を見据え、災害司令本部になります現在の庁舎の安全性は言うまでもありませんが、耐震化は非常に危険であると誰もが認識されている中で、24年度末頃、耐震部分に役場を移転するとかも踏まえ現在考えられる範囲で模索し、早い段階で方向付けをしなければならない段階にきているのではないかと思います。そこで、3つの提案させていただきます。1つ目には、中学校に司令本部だけ設置する方法、また、2つ目には、牟岐小学校の耐震をクリアした北校舎に4階、5階を増築し、その上に屋上を設け、津波に対応すべく高さを確保し、職員はもとより、地域住民の命の避難場所にする方法、或いは、3つ目には、今後建設される耐震化の優れた高台に建設予定の海部病院に隣接するとか、先日、地域町民の説明会にも示してありました地図でも隣接可能の土地があります。方法はいろいろありますが、庁舎移転、或いは、建て替え計画の検討は、避けては通れない時期がきているのではないかと思います。牟岐町は今、大きな事業をしております。統合事業、保育所建設と財政状況は厳しい状況ですが、本町舎移転とするのか、新たに建設して立て直しとするのか、老朽化に伴う修繕費は今後もかかり続けるだろうと予想されます。国、県においても南海、東海、東南海、3連動に向けて本腰を入れてきている中、牟岐町の防災拠点となる本庁舎は、震災直後の初動体制や避難対応に備えるべく、今後、どのように構築していくのか、町長の見解をお伺いいたします。2つ目に地域防災計画の更なる見直しについて質問させていただきます。防災計画には各地域を回って地域の現状や地域の声を聞くなど、いろいろと積極的に取り組まれております町長ですが、ここで、さらなる踏み込んだ質問をさせていただきます。1つ目に学識経験者の会には、同じ顔ぶれになりやすくなる可能性があります。その中に子ども達も巻き込んでいく各地域の小学生高学年や中学生、また、高校生に活躍してもらおう仕組みを進めてはどうか。高齢者が多くなっている各地域の現状。子ども達は大きな戦力になります。災害事後、児童、生徒の皆

さんに活躍してもらおう地域防災計画、減災の策定に子ども達を巻き込んだ取り組みを是非進めていただきたいと思います。2つめに町内に配置予定の簡易トイレ並びに組立式トイレの個数は50個と聞いておりますが、それぞれ幾つなのか、地域への配分と種類をお聞きいたします。さらに洋式なのか和式なのかも併せてお伺いいたします。つまり和式タイプは、高齢者には使いにくく、足や腰の悪い人やメタボの人は使えないなどの難点があり、汲み取り式であれば、汲み取り業者も被災を受け、直ぐには来られなかったという阪神、東北大震災の実例もあります。本町の場合は、どのような予定なのかお聞きいたします。もし、汲み取り式であれば、汲み取り型から水なしトイレ、凝固剤を用意することを提案いたします。避難場所、仮施設トイレとして用意しておく必要が大切ではないかと思えます。3つ目に昨年3月11日の災害を受け、全国をはじめ世界からもたくさんの救援物資が行政に届きました。しかし、多くの物資が必要にも係わらず、ダンボールに入ったまま廃棄処分となりました。何故だと思われませんか。理由は平等に配分されないからということです。行政の常識の壁というか、マニュアル的な指導の壁というか、非常に勿体ない話です。何よりも全国の善意の心が実らなかったという残念な結果になりました。そこで、行政ではなくボランティア団体とか先ほど申しました子ども達の団体が配分分については良いのです。是非、地域の子どもの連絡網を密にし、このような事態に対応できるよう、是非検討しておいて欲しいと思えます。4つ目に災害時要援護者の対応はどうされるのか、つまり、一人では逃げられない人が町内にもおいでます。また、家族が居ても置いて行けない家族の絆があります。非情の話し合いをしておくとの講師先生のお話しもありましたが、なかなかそこまで至らないところの家庭もあります。牟岐町において災害時要援護者、登録制度などはどうなっているのか、災害時、災害時後はどのように対応する予定なのか、地域コミュニケーションをしたり、事前に登録をしているところもあります。この件についてはいかがでしょうか。お聞きいたします。次の質問に入らせていただきます。牟岐バイパス進捗状況についての質問をさせていただきます。水面下で進められています牟岐バイパスの進捗状況をお伺いいたします。用地立会、用地交渉の状況は、どのようになっているのでしょうか。ご存知のとおり、牟岐町の商店街や牟岐町唯一の繁華街を素通りするプランであります。このルートに関係する商店、町民の皆様の説明会等は、今後どうされるのかも併せてお聞きいたします。新聞でも報道されました海部病院の移転先に牟岐バイパスにも触れています。海部病院につきましては、25年度にはやり終えなければならない事業ですので期間がありません。一番問題になるのは、埋蔵文化財の調査と地域住民との

下水の件だと思いますが、短期的に最優先事業として、取り組まなければならないと思いますが、もし、25年度中に用意ができず、牟岐町に存続できないという結果になれば、町長をはじめ町議も総辞職するぐらいの覚悟で取り組んでいかなければならないと思います。その大事な海部病院の事業より遅れての牟岐バイパス事業となりますが、町長が予測しています、20mから40mの高さには低い15mとなっております。東北級の災害がくるとすれば、高さが足りません。そこで牟岐バイパスから海部病院への道路、また、そこからもっとさらに高台へ行けるような避難道路も検討していく必要があるかと提案いたします。牟岐バイパスの工事時期、完成時期、現在の進捗状況をお聞かせください。

枅富議長 福井町長。

福井町長 おはようございます。只今、榎谷議員の方から役場の移転という非常にその重い大きな課題についてのご質問をいただきました。これまでテレビの地上デジタル化に併せ実施してまいりました光回線工事、また、現在施行中の小学校の統合工事及び保育所の統合工事、さらに来年度から実施予定の海部病院移転用地造成工事など、ここ数年大きな財政負担を伴う事業が続いておまして、財政的には非常に厳しい状況でございます。また、役場庁舎の全面改築には多額の工事費が必要でございますし、現時点では国や県からの補助が無く財源も耐震改修に掛かる防災対策事業債だけである。財政的な負担が非常に大きいこと。また、役場だけが津波に安全な場所にいたのでは、町民の方が利用しにくく中心市街地の空洞化を早めることも考えられますことから、これまでも庁舎の地震津波対策を決断できないまま経過しておるような状況でございます。しかしながら議員ご心配のとおり、大震災、大津波後の救援活動や復興において役場庁舎が拠点となり必要不可欠なものでございますので、できるだけ費用を掛けずに、できるだけ早く現庁舎を耐震性の強い建物に、また、津波に安全な施設にしたいと考えております。従いまして、現時点では、現庁舎にできるだけ近く比較的津波の影響の少ない場所にある既存の施設を改修等、屋内移転できることが最善と考えておりますが、詳細は来年度実施する地域防災計画の見直しの中で、町内外に見識者のご意見もいただきながら決定したいと考えております。それから、地域防災計画のさらなる見直しについてということでございますが、まず子ども達に活躍してもらおう仕組みを進めてはどうかということでございますが、議員ご指摘のとおり少子高齢化が急速に進行する過疎地において

は、地震津波等の災害時に元気な児童生徒に担ってもらいたい役割がたくさんございます。ただ地震から津波の襲来まであまり時間のない海部郡では、まずは児童生徒自身の命を守ってもらうことが第一でございます。従いまして、例えば、登校していない時に近くの避難所へ避難を率先する役割など、自分の避難に支障のない範囲でできる防災や救助の役割を分担してもらうよう来年度見直しをする地域防災計画の中でも位置付けてまいりたいと考えております。次に町内配置予定の簡易トイレ、組立式トイレ等の種類と各地域への配分でございますが、これは後で担当課長からお答えしますので、次に世界から届いた救援物資の配分についてということでございますが、いただいた救援物資は、現在は町民センターと牟岐中学校体育館へ保管し、各避難所ごとに配分する予定といたしておりますが、被災状況により変更が想定されます。従いまして、来年度、地域防災計画の中の地域防災計画見直しの中で詳細を検討してまいりたいと考えておりますが、いろんな被災ケースを想定し、また、いただく物資の種類や量に応じて計画してまいりたいと考えております。それと、要援護者への対応というご質問をいただいたのですが、今年度、要援護者登録システムですか、ちょっと正式名称は、今、持っていないのですが、設置しましたところでございます。今後その言うような運営についてですね、考えてまいりたいと思っております。ただ、いずれにしましても高台への移転というのは、要援護者を高台に移動するというのは非常に残酷というよりも同じような課題だと思っております。物理的に非常に難しいところでございますので、これは簡単に答えを見つけることはできないかも分かりませんが、できる限り避難しやすくするような方法を検討してまいりたいと思っております。それと、牟岐バイパスの進捗状況と今後の見通しでございますが、用地立会、用地交渉及び説明会の開催等の今後の予定でございますが、平成24年2月に公表されました国土交通省の事業計画におきましては、平成23年度末における事業進捗率は12%で調査設計を実施中のことでございます。そして、24年度は引き続き調査設計を行い、大谷地区の用地買収にも着手する予定とのことでございます。これまで用地立会は、関と大谷地区で終わっておりますが、杉谷、山田地区は、今月14日、明日から実施する予定でございます。説明会と設計協議は、まだ終わっていない地区もございますが、具体の日程は予算の状況に応じ決定していくということでございます。供用開始は、最も順調に進捗して平成23年度とのことでございますので、それ以降ということでございます。それと、病院の用地が20mと、まだ低いのではないかとご質問もございましたが、先の県の津波の浸水区域、予想、津波高ですね、そういうものから勘案したら今の時点では、安

全だということになっております。今後国の方がもう一度その想定津波高というのを発表するのだと思うのですが、おそらくこれも同じような高さになると思います。先に40mと申しましたのは、避難された住民の方が時間のある限り高いところまで避難できるという意味での40mということでございます、40mのところまで避難しないといけないというものではないというふうに考えております。以上でございます。

枘富議長 栗林総務課長。

栗林総務課長 それでは、榎谷議員の質問にお答えしたいと思いますが、先程、申し上げました、町長が牟岐バイパスのことで、もっと順調に進捗が23年度と言ったように思いますので、すいません、本人に私が28年ということで訂正させていただきますので、よろしく願います。それでは、私の方からは、地域防災計画の見直しの質問の中の簡易トイレの地域の配分と種類についてということでお答えさせていただきます。簡易トイレ式といたしまして凝固剤と目隠しテント、目隠しテントのサイズは、横1.1、縦1.1で、高さ1.9mの簡易なものです。それから便器については簡単な組み立て、直ぐに使える状況になっています。それをそれぞれ50個準備いたしております。トイレにつきましては、洋式になっております。1回、1回ビニール袋を使用しまして凝固剤で固める方式ということで、使用されますと、その場で処分はしていただかなければならないということになっております。配分につきましては、1箇所に2、3個程度を考えております。まずは町内10箇所程度の避難場所に設置できればと考えておまして、例えば、避難場所の設置管理者及び自主防災組織と協議中でございます。これをやってみて不足を生じましたら今後追加していきたいと考えておりますし、来年度も23年度同様、津波から命を守る緊急総合対策事業等を計画いたしておりますので、避難路、避難場所等の整備対策を含めながら各自主防災組織と協議して進めていきたいと思っております。それから、先程、質問の中で、町長の答えでなかったのですが、要援護者等の対策ということで質問がございました。私の方から答えさせていただきたいと思っております。要援護者支援の対策につきましては、只今名簿は作成させていただいております。それに対してどのような対策をするかということは、今のところきっちりした対策はできておりませんが、自主防災組織等で、それぞれどんな計画ができるかということで、協議していただいているところでありますし、それだけでは不十分かと思っておりますが、今後の対策として協議していきたいと思っておりますので、その点ご理解していただ

たらと思います。以上で私の答弁を終わります。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問させていただきます。庁舎移転と建て替え計画についての再問ですが、想定にとらわれず、自主的に避難してもらうということがモットーですが、3つの提案しました中で検討していただけるのでしょうか。役場が機能しないということのないよう、また、町民の命を守る、職員の命も守る上でも是非、早いうちに検討をお願いしたいと思います。2つ目の質問ですが、子ども達の戦力は、あくまでも震災後の取り組みということで、誤解のないようお願いしたいと思います。それから、3つ目の海部病院から高台への避難道路は、今後考えられているのでしょうか。先程、町長が申しました40mのところにするのでなくて、それに近いところに逃げられるというような形で、バイパスが15m、海部病院が20m、その上に避難道路みたいなもので高台に時間があれば逃げられるような避難道路を考えていただけるのかどうか。3点について再問いたします。答弁をお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 1番の役場庁舎の具体の計画が議員がおっしゃった3つの中から選択されるかということだったのでしょうか。

榎谷議員 模索していただけるかどうか。

福井町長 勿論そうです。3つも含めてですね、それ以上のものがあれば、極端な話、現庁舎の改修ということも選択肢としては無いわけではないのですが、海にも近く耐震性もないということで、現庁舎は、現時点では配慮しておりますけども、そういうことも全部含めて検討してまいりたいと考えています。できるだけ早くできましたら来年度の地域防災計画の中でまとめたいと思っております。それと、海部病院からさらなる高台ということは、あそこはあの辺りでは一番高いのです。移転した海部病院のことですね。あそこが一番高いところとなっております、あそこからさらなる高台というのは、一度下に降りていかなければ上に登っていけないので、それと、病院施設自体が

それからさらに上に上がるということですので、3階か4階か分かりませんが、その上に上がっていただいたら最悪の場合でも大丈夫でないかと。海部病院が1階が浸かるというようなことがございましたら、杉谷の団地自体が危ないというようなこととなります。あそこは避難所になっておりますし、現時点では、そこまでは考えておりません。以上で良かったでしょうか。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 海部病院の高台、そこから海部病院からの高台は、避難道路がないということであれば、海部病院の屋上に避難できるような体制を取っていただければと、道路がないのであれば、海部病院の屋上へ造っていただければと思います。今度海部病院、検査の話もあると思います。それをお願いしたいと思います。以上を持ちまして私の質問を終わらせていただきます。

枅富議長 4番、森議員。

森議員 質問を申し上げます。河川の土砂撤去及び改修、清掃に関してお尋ねします。牟岐川は下流から上流までの間、数年来の雨で土砂が溜まり雑木、雑草が生えて川の幅が狭くなり川底が数メートルも上がっているところもあります。また、水田の用水路に水がこないなどの問題が生じています。洪水によって、堤防、土手の崩壊の危険箇所が数箇所ございます。そして、土砂の影響かどうか分かりませんが、川魚が以前に比べて数も種類も極端に減っています。毎年4月に鮎が放流されています。昨年度は3箇所に42kg、約6千匹ぐらいだと思います。餌になる苔が少なく成長する数も少ないと思われます。また、夏場わずかな河原でキャンプ、バーベキューをして、川遊びをして、多くの方が子ども連れで楽しんでいます。もう少し広くて安心して遊べる場所があればと思います。いつ来るか知れない南海、東南海地震に対して、津波の防災、河川の洪水被害の観点から、また、水の確保、水泳などの遊び場、環境、景観面から見ても土砂を撤去し、雑草などの清掃、整備が必要だと思います。次に関連しますが、東の観音寺川の土砂撤去の予定も併せて今後の対応、対処、予定などを説明をお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 まず牟岐川の土砂の対策による環境悪化と防災上の危険性についてでございますが、元来河川の維持管理は、災害防止の観点から、また、河川の適正利用、環境の保全の観点から河川の有する多面的機能を十分発揮できるように行われるべきでございます。しかしながら森議員がご心配のとおり、近年土砂の堆積により多くの河川の下流部分の河床高が起っておりまして、牟岐川におきましても堆積土砂の撤去が適正に行えないため雑木や雑草の繁茂、排水有効面積の減少、河床の上昇による堤防の崩壊の危険等が危惧されております。このため県にもできる限りの対策をお願いしておりますが、洪水対策は、全県下的な問題でもございまして、財政上の課題と土砂の処分場所等の問題で、大きな成果は現時点ではいただいております。ただ、雑草につきましては、平成20年より定期的に除草していただいております。今年度町が処分場を取得しましたところから現在除草を行っていただいております。今後はできるだけ早期に町も残土処分場を用意し、再度県に土砂撤去の要望をしまいたいと考えております。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。次に観音寺川の土砂の撤去予定でございますが、これは、今年度予算付けをいただいております。3月中にも撤去する予定でございます。いずれにいたしましても公共工事も減少し、町や県の財源が不足する中、道路や河川の適正管理は行政の大きな課題でございます。また、雑草、雑木の繁茂は、景観上も大きな課題でございますので、できる限り地元の方のご協力を得て官民一体となった管理を行ってまいりたいと考えておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

枅富議長 寒葉産業建設課長。

寒葉産業建設課長 私の方からは、森議員さんの牟岐川の土砂堆積対策、危険箇所の対策について、町長の補足答弁とさせていただきます。まず牟岐川の土砂堆積対策、雑木除去対策について、お答えをさせていただきます。この対策につきましては、先程、町長の答弁にもございましたように平成20年より県によりまして、アシ、ヨシの除去ということで、清水橋から上流にかけて取り除きを実施していただきました。また、本年度には清水橋の上下流、それから、上流側でございますが、平野地区、平野橋の上下流のアシ、ヨシ、雑木の除去を実施していただいております。その他の河川といたしましては、内妻地区の内妻川におきましても同じアシ、ヨシの除去対策を実施していただき

ました。また、土砂堆積に関しましては、牟岐川、橘川の合流点の堆積土砂の取り除きも実施していただきましたが、現在は、元どおりの状況でかなりの土砂が堆積されております。状況を見ながら町といたしましても管理者の県の方に今後も要望をしていきたいと考えています。基本的には河川の通水断面が確保されていれば、取り除きするのは難しい面もあろうかと思いますが、町といたしましても今後とも要望を重ねてまいりたいというふうに考えております。さらには特に異常気象で、雨の降り方も以前とは違い、豪雨型が多く、集中豪雨型が多くなっておりまして、河川の護岸洗掘されている箇所が多く見受けられるようになってきました。調査も含めて、これも同じく2級河川につきましては県管理ということでございますので、県の方に要望をしてまいりたいと思います。そして、現在県の事業によりまして、いきいき健康モデル事業ということで、牟岐川を対象にいたしまして中央橋から国道牟岐橋の間におきまして河川環境を含めた事業実施をしていただいております。地域住民との共同での対応ということで実施していただく予定になっております。また、牟岐川以外の町内の河川でもボランティアの方々による護岸の法面等の草刈り等を実施していただいております。今後河川管理につきましても河川のみで考えるのではなく、それぞれが持つ機能を生かして先程、森議員さんもお質問の中にございましたように生態系、環境問題も含めて全ての川だけとして捉えるのではなく、山、川、海と全体で捉えまして住民の方々との意見交換を踏まえまして、今後の河川管理ということを考えていきたいというふうに考えております。最後に観音寺川につきましては、町長の答弁もございましたように今年度予算付けをしていただいておりますので、3月末には完成する予定でございます。現在、今週より工事着工というような状況でございます。以上でご答弁とさせていただきます。